

## 夏・秋へ向けた発熱外来・PCRセンター設置の効果と今後

**質問** 利根沼田地域においても発熱外来・PCRセンター設置は必須と考えていましたので、この設立は率直に喜びたいし、関係者の努力にも感謝を申し上げます。

そして、今後の課題は、感染が疑われる人の優先順位の振分け、役割分担等による医療関係者の加重負担軽減が、上手くいくか否かに掛かってくると考えています。現在このセンターがこの役割をしっかりと担い、夏から秋へ向けた今後の状況へも、対応が順調に推移していくのか伺います。

**答え** 5月18日から沼田利根医師会の協力により「発熱外来兼地域外来・検査センター」が開設されています。かかりつけ医が患者の重症度を判断し、「帰国者・接触者相談センター」へ相談か発熱外来受診かの振り分けを行っております。保健所や「帰国者・接触者相談センター」の負担軽減につながるとともに、発熱外来ではその場でPCR検査が可能であり、患者の負担も軽減されています。

さらには、防護体制の整っていない医療機関への受診による院内感染の防止や地域住民の安心につながっており、市といたしましても順調に運営できるよう支援していく考えです。

### 発熱外来兼地域外来・検査センター

利用方法：電話にて予約してください  
 電話番号：23-2058（沼田利根医師会）  
 開設日：毎週 月・水・金 13:30~15:30  
 （1日最大4名）

※ 場所は沼田市内某所ですが、利用者のプライバシー等に配慮して公表は出来ません。

都道府県別ICU等のベッド数 h29年				
県別	2対1（患者2人に対し看護師1人）			
	ICU1~4	救命2・4	合計	対人口10万
茨城	118	22	140	4.8
栃木	74	7	78	4.1
群馬	51	12	63	3.2
埼玉	262	54	316	4.3
千葉	275	89	364	5.8
東京	848	247	1095	8.0

## 第1波に学び 県全体で集中治療体制整備を!

**質問** 報道では「無自覚、或いは無症状な方々の感染拡大と急激な重症化」という特徴を持つこのウイルスへの対応は、基本的に隔離しながらの対応と成らざるを得ず、病床の確保と利用率に大きな経済負担を強い、さらに一般の罹患者の対応を割り切らざるを得ず、医療機関は大きな経営危機とされています。

頼みの政府からの財政支援も桁が違うほどの乖離が生じていると聞き及びますが、市長は、この重大な課題をどう考え、乗り越えようとお考えなのか伺います。

**答え** 感染予防の観点で院内のゾーニングなどを行った結果、稼働率が低下したり、外出自粛や医療機関での感染の心配から受診頻度の抑制等、受診者の減少などで経営状況が悪化している医療機関は少なくないと考えています。

国では新型コロナウイルス感染症患者専用の病院等への支援や患者と接する医療従事者への慰労金の支給、医療・福祉事業者への資金繰り支援、医療用物資の確保・医療機関等への配布等を第二次補正予算案に盛り込んで、医療機関や医療従事者を支援する体制を構築しておりますので、市といたしましても物資提供や風評被害の払拭など、できる限りの支援を行っていきたいと考えています。

現在、本邦には約6,500床ほどのICUベッドがあると推定致しますが、約4倍のマンパワーが必要であること、他の重症患者の受け入れも必要であることを考えると、このままでは、実際に新型コロナウイルス感染症の重症患者を収容できるベッド数は1,000床にも満たない可能性があります。

無理に収容すると感染防御の破綻による院内感染、医療従事者の感染、集中治療に従事する医療スタッフの肉体的・精神的ストレスが極限に達しています。イタリアでは医療従事者が60名以上死亡しているとも聞きます。 4月20日

**日本集中治療医学会 理事長 西田 修**  
 左の表を見て分かるように、日本のICUの人員基準は看護師1人で患者2人を担当することになっています。TV等でも分かるように、エクモ等を使用する重篤な患者には見た目だけでも医師や看護師4~5人が看ています。

左ページのように、保健所に加え新たな外来センターが「トリアージ（優先度の振分け）」機能を発揮して「集中治療体制崩壊防止」の役割を担ってくれることを切に願っています。



**質問** アメリカの外交誌は5月、論評記事で「日本の新型コロナウイルス感染対策は、ことごとく見当違いに見えるが、結果的には、世界で最も死亡率を低く抑えた国の一つであり（対応は）奇妙にもうまくいっているようだ。」と伝えました。海外メディアを中心に「奇妙な成功事例」と評された、この日本の緊急事態対応の分析と、今後の支援拡充について伺います。

**質問** 国の推奨する「働き方改革」や、大災害時にこそ実現可能として論ずる「ニューノーマル」新たな生活様式を評論家の方々は、夢のような世界の「ネクスト・ステージ」を語っている印象を受けます。現在を生きていくのに精一杯で、補償もなく途方に暮れているときに、理想や未来のあるべき姿を語っても意味を成しません。

また、新しい生活様式に移行するまでの、痛みを伴う事業の半減や消滅候補産業も容易に想定されると考えます。一例を挙げるならば、病院の隔離室の「空床」補償に習って電車や飛行機、スタジアムなど「客席」を大幅縮減するようなプランは、感染対策には有効でも、経済性は著しく損ないます。

新たな生活様式にも関連した今後の地域の方向性として、新たな生活様式における経営悪化や雇用喪失の懸念について伺います。



新型コロナウイルス対策の政府の基本的対処方針等諮問委員会のメンバーである小林慶一郎氏が語るには、「感染対策を強化してコロナによる死亡者を限定化出来ても、経済活動の停滞で生活が困窮し、自殺者がこれを上回れば、政策としては失敗である。」と述べています。

さらに、現在は第1波の大損傷を癒やすことに政策を集中すべき時期で、当面個世帯への補償を充実させるべきだ。政策としてはベーシックインカム（収入最低保障制度）も検討すべき。また、裏付けとなる「財源確保」に向けては、トービン税導入（国際協調による金融取引の収益への課税）を考えるべきとしています。

## 「奇妙な成功事例」と評された緊急事態対応

**答え** 日本の死亡者が少ないことについて、諸外国からは、日本人の規範意識や公衆衛生に対する意識の高さが導いた結果であり、マスクを着用する習慣、相手を気遣い、人との距離をとり、握手を避ける配慮などからきた成功事例と言われています。

しかしながら、緊急事態宣言に伴う行動制限により、多くの事業者が深刻な経営危機に陥っている状態にあると認識しています。

休業要請や外出の自粛により、売上げが減少どころかゼロとなっている状況においても、家賃や光熱水費などの固定費や、従業員を守るための人件費等の多額の負担があることが、その原因であると考えています。

**答え** 飲食業や宿泊業をはじめとするサービス業や小売業においては、需要の減少に伴う売上の減少と併せて、一度離れてしまった顧客をすぐに呼び戻すことは容易ではなく、厳しい経営状況は当面続くことが予測され、雇用の喪失が懸念されます。

今後も、事業者が新しい生活様式を取り入れ、コロナと共存しながら、事業を継続し雇用を維持できるよう、国や県の施策の動向を注視し、関係機関と連携しながら、対応していきたいと考えています。



いささか乱暴ですが！例えばアイスホッケー！？氷上でのプレイはとても過酷なため20分で15分の休憩をし、いつでも選手は交代が可能なスポーツと聞いています。

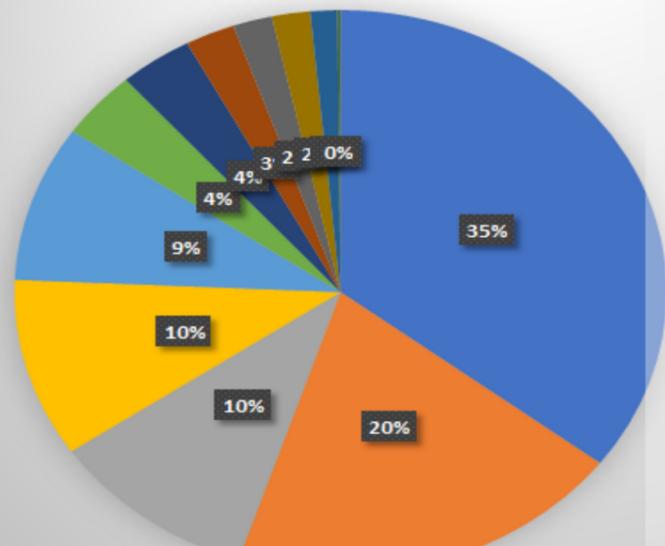
常に選手は「万全な体調」でプレイし、疲れたらいつでも交代できるシステムが完成すれば、…これが、コロナ対策にも導入できたら…と考えるのは私だけではないはず。

集中治療室でエコナを使いこなすには医師や看護師の確保が必要！しかし、人間は工具ではないので「急増」させることは困難。ホテルでも大変な空床の確保にも多額の財政負担。

止むまで雨に耐えるのではなく、雲の上に登ることを考える！という発想も…誰かの言葉！

病院は毎日以下の患者を区別無く受け入れている！感謝

### 2018年原因別死亡人数



右表と%の違いは「その他」を加味していない為

**質問** 新型コロナウイルスも1月に始まり、もう半年を向かえようとしています。この間、新しい情報や、特徴も徐々に明らかになりつつあります。2歳児まではマスクは危険であるとか、10歳までの児童は、感染率も低く、そのほとんどが軽症者で、感染の多くは親からであることなどが、研究や蓄積されたデータなどにより徐々に明らかになってきています。

単純に「オオカミが来たから全員が一斉に避難する」として、目の粗い大きな網掛けで対応するのではなく、目の細かい小さな網で繊細な対応を願うものです。

今後は、教育の権利・義務の遂行・補償の立場に立ち、最新の感染リスクを冷静に分析した学校運営、再開についての教育長の考え方を伺います。

**答え** 市内の小中学校は、感染症対策の徹底や児童生徒の負担軽減、集団生活への適応などを考慮し、6月1日から各学級を半数に分け、1日おきに登校させる「分散登校」で学校を再開しました。

分散登校中、文部科学省の「学校の新しい生活様式」や県の「学校再開に向けたガイドライン」を基に作成した市教育委員会の「新しい生活様式」を各学校に活用してもらい、児童生徒自身に新しい生活様式を身に付けさせるよう指導しました。なお、来週からは、児童生徒の負担等を考慮し、授業軽減をしながらの通常登校を予定しております。



### 正しく恐れる!の再認識を!

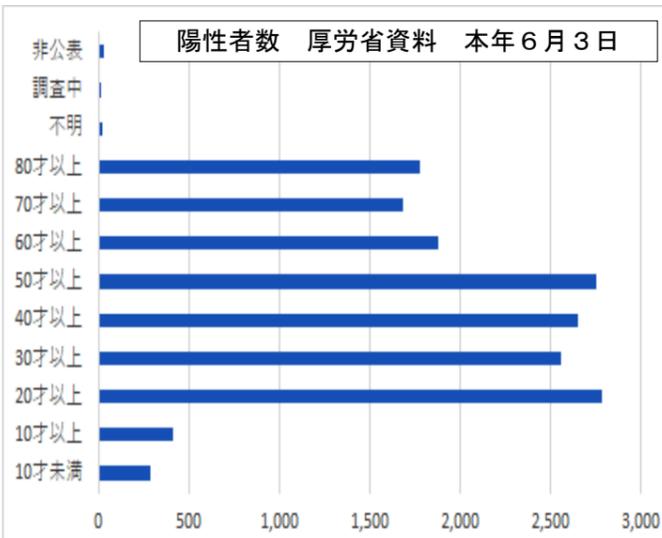
左表でも明確なように10才未満、10才代の年代は「陽性率」そのものも低く、最近の研究によれば、重症化率も極めて低く、死亡の事例はほとんど見られないという報告があります。

私たちは、登下校中のソーシャル・ディスタンス確保中のマスク着用による熱中症、不注意による交通事故などへのリスクと整合性も考慮しなくてはなりません。

この際、学校や家庭には、柔軟で現実的な対応を求めたいと思います。上の表にも見られるように、「医療体制の逼迫や崩壊」を防ぐのはコロナ感染による病院利用だけではないことを改めて申し上げたいと思います。

年間  
総死亡者数 1,362,482人

原因	人数	割合
悪性新生物 (ガン)	373,547人	27.41%
心疾患	208,210人	15.28%
老衰	109,606人	8.05%
脳血管疾患	108,165人	7.94%
肺炎	94,654人	6.95%
不慮の事故	41,213人	3.03%
誤嚥性肺炎	38,462人	2.82%
腎不全	26,080人	1.91%
詳細不明の認知症	20,526人	1.51%
自殺	20,032人	1.47%
糖尿病	14,170人	1.04%
熱中症	1,581人	0.12%
その他合わせて	306,236人	22.48%
新型コロナウイルス	現在約1,000人	



### 教育の実施主体としての決意!

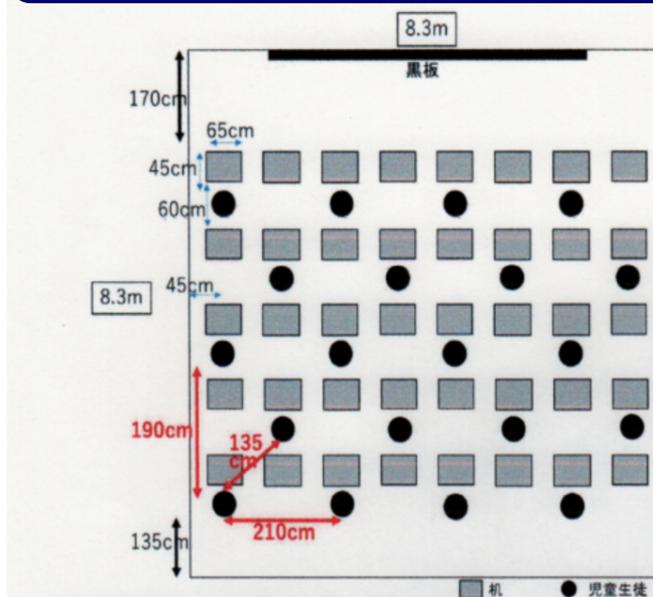
**質問** 去る2月27日、安倍首相の「鶴の一言」による全国一律一斉休校宣言が出されました。地域の現状も実情も関係なく、教員も保護者も準備する時間も無く、突然の休校要請で多くの混乱を招いたと認識しています。新型ということもあり、情報も乏しく仕方のない点もありますが、いささか強引で乱暴な要請であったと考えています。

沼田市へも波紋は十分に及んだと考えておりますので、本市の教育の事情を一番良く把握している教育長は、今回の全国一律対応をどう評価するのかお聞かせください。



**答え** 国からの全国一斉の臨時休業の要請及びそれに伴う県教育委員会の依頼を受け、本市では3月2日から臨時休業としました。約3か月間、児童生徒が学校生活を送ることができなかった事実を踏まえ、今後、児童生徒の学力や体力、心身の健康への影響等について、慎重に評価していく必要があると考えています。

### 「学校の新しい生活様式」へ向けた机配置



### 新たな生活様式に基づく少人数学級

**質問** 学校での新たな生活様式に基づく少人数学級の実現についてです。先般、文科省から先般発行されました「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」によれば、学級の机の配置を2m間隔とする図面まで示されております。

この方式を遵守すれば、コロナ対策にもなり、自ずと少人数学級が実現し、従来から課題であった教員と児童・生徒が、ゆとりを持って向き合うことが可能となり、働き方改革、教育の質の確保にも資することにもなります。当然、大幅な予算と人員の確保は論を待ちませんが、教育長のお考えを伺います。

**答え** 文部科学省の「学校の新しい生活様式」において、児童生徒の机の間隔が例示されており、それに基づいて各学校で工夫するように指示しております。教室の広さにもよりますが、例示の間隔を確保できない場合は、各学校で換気を工夫したり、普通教室よりも広い教室等を活用したりすることを検討しています。

また、文部科学省の本年5月27日付け「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』のための人的・物的体制整備について」の事務連絡において教員の加配、学習指導員の追加配置、スクール・サポート・スタッフの追加配置が示されました。今後、県教育委員会からの通知を待つとともに、各学校の実態や要望等の把握に努め、対応していきたいと考えています。

### コロナ感染症に関する衛生管理マニュアル

「学校の新しい生活様式」(2020.6.16 Ver.2)には、感染防止3つの基本であるマスク手洗いの他「身体的距離の確保」として左のような教室の図面が示されています。

■は、従来の机配置で40人を収容できる配列となっています。

一方●は、新しい生活様式に基づいた机配置で赤字で示すように児童・生徒同士がソーシャルディスタンスを保てるよう最大で20人の収容となっています。

私は、この際、新しい学校の生活様式を積極的に取り入れ、各学校で従来から求められてきていた「少人数学級」を前倒して実施してはどうかと教育長に求めました。

教育長は、そこまでは中々難しいが、学校支援員やスクールカウンセラーなどの「補佐役」の財政的配分はされると答えてくれました!